

平成30年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校特別支援学級運営						所管	教育委員会 学務課	
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	230	計画事業名	特別支援教育の推進			事業の開始・終了年度		
	長期総合計画体系	[基本目標] Ⅲ-2. 次の世代の育成 [小 柱] (3) 社会を生き抜く力を育てる教育の推進 [施策] ②特別支援教育の推進								
								[終了予定]	- 年度	
	根拠法令等	法令(義務)		[法令等名]	学校教育法					
	事業対象	直接の対象 : 区立中学校に在籍する特別な指導を必要とする生徒 最終的な対象 : 同上								
	事業目的	中学校特別支援学級の円滑な運営を図り、障害のある生徒の学習環境を向上させる。								
	事業内容 [29年度]	特別支援学級の適正な学級編制を行い、学級運営に必要な消耗品・備品等の予算を令達し、適切な教育環境の整備をした。								
委託の有無	一部委託		委託内容	難聴学級要約筆記						
補助金の有無	なし									
事務事業の実績	種 別	指標の名称		単位	31年度 目標値	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績		達成率
	活動指標	特別支援学級		学級	6	6	6	6	7	85.7%
	成果指標	特別支援学級在籍生徒数		人	40	43	40	40	44	90.9%
	決算額 (単位: 千円)					27年度		28年度		29年度
	事務事業コスト (単位: 千円)	人にかかるコスト (人件費など)				1,390	1,298	1,499		3,352
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)				1,390	1,299	1,499		3,352
		その他のコスト (扶助費・補助費など)				0	0	0		0
		総経費				3,796	3,350	4,851		4,851
	財源項目 (単位: 千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)				0	0	0		0
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0		0
一般財源 (区負担額)				3,796	3,350	4,851		4,851		
前回評価から29年度に改善した事項	難聴学級指導用スピーカーの買替により、難聴生徒の学習環境の改善が図られた。									
評価の視点	評価	評価の理由								
	必要性	4	法令等の定めにより行政が主体となる必要がある。特別な支援の必要な生徒個々に合った適切な教育的支援の必要性は高まっている。							
	効率性	3	コストに増減はないが、各特別支援学級の運営にあたり、必要最小限の備品・消耗品等の環境整備をした。							
	手段の適切性	3	特別支援学級で必要な教材や備品の購入を効率的に行えるよう、学級数に応じて各校に予算令達した。							
目的達成度	3	特別支援学級の運営にあたり、特別な支援の必要な生徒個々に合った適切な教育的支援を行った。								
[総合評価] ※上記4つの視点を踏まえ、事業全体を評価。区民生活への影響を十分考慮すること。							今後の方向性			
特別な支援の必要な生徒個々に合った適切な教育的支援ができるよう、教育環境の整備を行った。障害のある生徒の将来の自立を目指し、持てる力を最大限に伸長するために、引き続き適切な教育環境を提供していく。							維持	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		